只見町のESD

ふるさと只見を愛し、誇りに思う心を育てるESD
ふるさとのよさを学び、課題を見つめ、未来を切り拓く力へ

福島県只見町教育委員会
只見町立只見小学校，朝日小学校，明和小学校，只見中学校

目　　次

１　只見町のＥＳＤの概要　・・・・Ｐ１～

２　只見町のＥＳＤとＳＤＧｓとの関連

○ ＳＤＧ．４との関連　・・・・・Ｐ４

○ 第７次只見町振興計画

（基本方針と主な施策）　・・・・・Ｐ５

○ 只見町のＥＳＤとＳＤＧｓとの関連

・・・・・Ｐ６～

３　只見町小中学校の取組

○ 学校教育でのＥＳＤグランドデザイン

・・・・・Ｐ１６

○ 只見町のＥＳＤで目指す子ども達の姿

・・・・・Ｐ１７

Ⅰ 只見小学校の実践　・・・・・・・・Ｐ１８～

Ⅱ 朝日小学校の実践　・・・・・・・・Ｐ２０～

Ⅲ 明和小学校の実践　・・・・・・・・Ｐ２２～

Ⅳ 只見中学校の実践　・・・・・・・・Ｐ２４～

ふるさと只見を愛し，誇りに思う心を育てるＥＳＤ

～ふるさとのよさを学び，課題を見つめ，未来を切り拓く力へ～

１　只見町の概要

只見町は，福島県の南西部に位置し新潟県と接しており，町の総面積７４７km² の約９４％が山林で占められている中山間地域であります。気候は，日本海側気候で四季がはっきりしており，それぞれの季節ごとに大自然の美しいアートを織りなしてくれます。反面，日本海特有の冬の期間が長く，積雪が２～３ｍにもなる豪雪地帯でもあります。この豪雪と地形が電力資源として注目され，戦後の復興に只見川電源開発が国策で行われた水力ダムの町でもあります。町の人口は，昭和３０年代のダム建設当時の１万２千人をピークに年々減少しており現在３千８百人台で高齢化率も４８％に達しています。

しかし，この豪雪がもたらした厳しくも豊かな自然と，そこに感謝と畏敬の念をもって暮らしてきた人々の豊かな共生，その中で生まれた豊かな文化が認められ，平成２６年ユネスコエコパークに認定されました。

２　ユネスコエコパーク認定とESD

本町ではブナの原生林はじめ豊かな自然の保護活動が早い時期から行われており，地域の最大の課題である少子高齢化・過疎化に対抗する方策としてこの只見のよさを生かすことが考えられました。

Ｈ１８**「ブナと生きる町，雪と暮らす町」**を理念に掲げて只見地域独自の自然環境，伝統文化，歴史，産業を生かした町づくりを推進することとした第６次只見町振興計画が策定されました。Ｈ１９には只見の自然環境を保護・保全し，次世代に引き継ぐことを責務とした**「自然首都・只見」宣言**を行っています。

そうした中，平成２３年３月に東日本大震災とそれに伴う原発事故，そして，同年７月に起こった新潟・福島豪雨災害により甚大な被害を受けました。こうした現状を受け，自然環境を保護・保全しつつ，自然環境や天然資源を持続可能な形で利活用し地域の社会経済的な発展を目指すユネスコ MAB 計画 Biosphere Reserve(生物圏保護区，国内呼称：ユネスコエコパーク)を枠組みとして，町が取り組んできた振興計画や宣言をより強力に具体化することとしました。

BRはその目的達成のため①自然環境・生物多様性の保護・保全，②学術調査研究，教育，人材育成，③産業振興の３つの大きな目標を掲げていますが，このうち学術調査研究，教育，人材育成においては，ユネスコスクール（ＥＳＤを行う拠点校）の活動を位置づけ，取組を推進しています。

３　地域に支えられ，地域を元気にする只見の子

H26~28 年度までに只見町３小学校と１中学校がユネスコスクールに認定され，それぞれの地域の特性とよさを生かしながら，同じ目標を持って取り組んでいます。それは，世界の平和を守っていく人材育成の土台として，ふるさと只見愛を育み，ふるさとの豊かな存続に寄与できる人材を育てる教育と考え，ＥＳＤの実践を通して地域を愛し，誇りに思う子どもの育成を目標とした以下のような取組です。

①　伝統文化継承に関わる学習

只見町には昔から伝わる伝統芸能があり，県の重要無形民俗文化財に指定されているものもあります。学校では，各保存会の方々に指導していただき，その成果を地域に発信し，感謝の気持ちを届けています。この学びを通して，「今度は私達が引き継いでいきたい」という地域を大切に思う気持ちが高まっています。

②　豊かな自然・文化の再発見に関わる学習

林野庁の郷土の森に指定されている「恵みの森」，「癒しの森」などユネスコエコパーク只見が誇る雄大なブナの森を，美しい渓流を渡りながら学習します。近くにこんなに素晴らしいところがあることを改めて感じ，ふるさとへの思いが深まります。また，ただみ・ブナと川のミュージアムや河井継之助記念館などを見学・体験し，只見に伝わる貴重な歴史・豊かな自然について学びを深めます。令和４年には，民具の収蔵・展示・研究などを行う「ただみ・モノとくらしのミュージアム」がオープンします。自然と共生してきた只見町の先人の思いを感じ，持続可能な社会を考えるきっかけとなることでしょう。

③　防災と共生に関わる学習

只見町は豊かな自然に恵まれていますが，それ故に厳しい災害もあります。雪害対策や平成２３年７月の新潟･福島豪雨災害について学んだことを中心に，地域の方々に発信しています。この学習を通して防災の大切さを知ると共に，この豊かな自然を生かしながら減災を考え，厳しい自然と向き合い共生をしてきた只見の人々の偉大さについても学ぶことができます。そしてユネスコエコパークに認定された意義を改めて理解することができ，ふるさとへの愛情が深まっています。また，地域と合同の防災訓練も行い，連携と意識を高めています。

④　学んだことの発信に関わる学習

修学旅行での行先で只見町のよさを知ってもらいたいと，豊かな自然の様子や行事の紹介など心を込めて作ったパンフレットを，道行く人に説明しながら配っています。また，各校にＩＣＴが整備され，オンラインによって全国に向けて取組を紹介する機会も増えています。

ユネスコエコパークの町としての学びを深め，他の地区の取組と比較しながらよりよい町にしていくにはという視点で発表したり，防災パンフレットを作成して地域の方や公共施設に配布して呼びかけたりすることにより，地域への思いがさらに深まっています。

⑤　「只見おもしろ学」の推進

「只見おもしろ学ガイドブック」を活用した体験学習や「只見おもしろ学検定」を通して，ふるさとを学ぶことへの意欲向上を図っています。今では，小中学校全校で検定に取り組み，上級の合格者も多数出ています。只見の自然・文化・産業などの理解を深め，子どもから大人まで只見学博士となることで，自信と誇りをもって只見町をＰＲしてほしいと願っています。

⑥　課題を見つめ，未来を切り拓く力へ

「只見町の自然環境，世界の自然環境を守る自分達でできる身近な取組」「只見町の伝統文化や伝統食を守る取組」「道の駅や八十里越開通などによる観光活性化」「自然と共生した生活」など，多岐にわたって，しかも只見町が現在直面している課題にしっかりと焦点を当てて，その解決に向けた学習に取り組んでいます。只見町に対する期待と深い愛情をもち，まさにふるさとの未来を切り拓く気概が伝わる学びとなっています。

4　グローバルな視点でふるさとと世界をつなぐ

町内小中学校が連携して，海洋教育の視点を付加したＥＳＤに取り組んできました。山間部での海洋教育は，地域の方にも不思議がられますが，今までのＥＳＤの取組は，その視点を地球規模の水循環に向けると全て海とつながっています。

只見に流れる川も，降る雪も，豊かな自然を支える命の水として海とのつながりなしには考えられません。全ての源である「海」を意識した学びを通して，地球規模の水の循環という広く大きな視点で只見愛をさらに深め，「ふるさとを愛することは海や地球を守ること，世界を幸せにすること」と大きな正義感を育て，ＳＤＧｓ達成の意識を高めたいと考えます。

○　ＥＳＤの学習は地域の支援が必要です。そのため，ＥＳＤを進めることで，子ども達と地域の人達との交流の機会が増えます。地域の人達は，子ども達と関わることで「元気をもらっている」と言ってくださいます。ＥＳＤの活動を通して「地域に育まれ，地域を元気にする只見の子」が育っています。

今後は，ＥＳＤが子ども達の学びだけにとどまるのではなく，生涯学習として地域住民全体の学びとなり，町民一人一人が持続可能な只見町，持続可能な世界を創造していく大きな力となることを確信しています。

只見町教育委員会

すべての人々への，包括的かつ公正な質の高い教育を確保し，生涯学習の機会を促進する

４－４　技術的・職業的スキルなど，雇用，働きがいのある人間らしい仕事及び起業に必要な技能を備えた若者と成人の割合を大幅に増加させる。

４－７　持続可能な開発のための教育及び持続可能なライフスタイル，人権，男女の平等，平和及び非暴力的文化の推進，グローバル・シチズンシップ，文化多様性と文化の持続可能な開発への貢献の理解の教育を通して，全ての学習者が，持続可能な開発を促進するために必要な知識及び技能を習得できるようにする。

＜第七次只見町振興基本計画 第２章

Ⅱ 文化に根づく人づくりと学び続けるまちづくり＞

1．将来の只見町を担う子供たちの教育の充実

（1）たくましく自立できる力の基礎となる教育内容の充実

（2）教育環境，教育施設・設備の改善・充実

（3）地域の発展と人材育成を担う県立只見高等学校への支援

2．家庭教育力・地域教育力の向上

（1）子を持つ親や家庭教育力の向上

（2）家庭教育の補完機能を果たす地域社会の形成

3．魅力ある生涯学習の推進

（1）生涯学習体制の充実

（2）人材育成支援の充実

（3）生涯学習施設の整備・充実

4．地域文化の振興（地域で生まれた人の技・物・食の伝承

（1）地域文化の振興

（2）文化財の保護と伝承

（3）伝統文化を継承する人材の育成

（4）文化保存環境の整備

5．生涯スポーツ・レクリエーションの推進

（1）生涯スポーツ・レクリエーション活動の充実と健康増進

（2）スポーツ推進体制・指導体制の整備

（3）スポーツ・レクリエーション施設の充実

第七次　只見町振興計画

第２章　Ⅱ 文化に根づく人づくりと学び続けるまちづくり

1. 将来の只見を担う子どもたちの教育の充実

＜基本方針と主な施策＞

(1)たくましく自立できる力の基礎となる教育内容の充実
①持続可能な社会を構築する担い手を育むESDの推進
②総合的な学習「只見学」の推進と「只見愛」の育成
③基礎的な学力と体力の向上
④外国語教育の充実
⑤防災教育，放射線教育の充実
⑥心を育てる読書活動の推進
⑦道徳教育の充実とコミュニケーション能力の育成
⑧情報教育の充実と情報活用能力の育成(情報通信技術を活用した教育活動の展開)
⑨起業家精神の育成
⑩保小中高連携教育の推進(レインボープランの継続強化)
⑪コミュニティスクールの推進
⑫インクルーシブ教育の推進

(2)教育環境，教育施設・設備の改善・充実
①教育相談機関の充実
②奨学金制度の充実
③校舎，体育館等の改善・修繕による教育環境の整備
④学区内及び校地・校舎内の事故防止，安全確保のための点検・整備
⑤スクールバスの計画的な運行・整備
⑥給食センターの充実
⑦教員住宅の修繕等整備
⑧学童児童減少に伴う小学校の在り方の検討
⑨奥会津学習センターの施設の整備

(3)地域の発展と人材の育成を担う県立只見高等学校への支援
①県立只見高等学校振興対策の充実
②地域課題解決型など特色あるコース等の創設
③奥会津学習センターの生徒支援機能の充実
④地域や企業等との連携の強化
⑤地域課題解決に向けた教育活動の実現のための支援

2. 家庭教育力・地域教育力の向上

＜基本方針と主な施策＞

(1)子を持つ親や家庭教育力の向上
①子育てサークル・子育て教室の実践
②子育て経験者と子どもを持つ親との交流機会の創出
③子育ては家庭や地域がしっかり行う意識の向上
④地域活動への積極的な参加
（世代間交流，体験の場で意識改革）
⑤家庭におけるメディアや携帯・スマホのルールづくり（アウトメディアデー等の実施）

(2)家庭教育の補完機能を果たす地域社会の形成
①一体型の放課後子ども教室及び放課後児童クラブの実施
②地域社会全体で親子の学びや育ちを支える環境づくり
（保育所・学校・地域との連携，子育て相談窓口や協力体制整備）
③親や祖父母対象の子育てに関する学習機会の創出
（家庭学級，講演会，セミナー等の開催）

3. 魅力ある生涯学習の推進

＜基本方針と主な施策＞

(1)生涯学習体制の充実
①地域に学び地域を創出する「只見学」の推進
②住民ニーズに合った多様な学習機会の充実
③自主的な生涯学習の場の提供とサークル活動の奨励（講師登録制度）
④世代間交流事業の実施，拡大
⑤町長部局や振興センターとの連携強化（地域間交流や連携による事業の充実）

(2)人材育成支援の充実
①只見で活躍し，各分野でリーダーとなる人材の育成の推進（地域人材育成ダイヤモンドプラン）
②循環型生涯学習を構築するための学習活動の支援や指導者の育成

(3)生涯学習施設の整備・充実
①只見地域の自然，文化，歴史を学ぶ施設の充実
②高度情報化に対応し振興センター機能の整備
③学校教育施設の活用
④図書館整備や図書の充実と効果的活用

4. 地域文化の振興（地域で生まれた人の技・物・食の伝承）

＜基本方針と主な施策＞

(1)地域文化の振興
①文化活動の推進と奨励
②文化活動の推進体制の整備（文化協会への支援）
③文化行事の開催（文化祭，文化講演会等）
④芸術鑑賞の機会の充実（演劇，音楽，美術等）

(2)文化財の保護と伝承
①文化財調査，指定保護運動の推進
②文化遺産の保護・活用（八十里越の史跡化）
③民俗文化財の保存と活用
④天然記念物の保護

(3)伝統文化を継承する人材の育成
①食文化等の人の技・物・食の伝承
②郷土芸能と伝統工芸の後継者育成
③伝統行事の伝承

(4)文化保存環境の整備
①民俗資料等の収蔵・展示施設の整備
②文化施設機能の整備
③文化資料等のデータベース化と情報発信

5. 生涯スポーツ・レクリエーションの推進

＜基本方針と主な施策＞

(1)生涯スポーツ・レクリエーション活動の充実と健康増進
①生涯スポーツの振興（年代応じたスポーツやアウトドア活動の充実・発展）
②老若男女が気軽に楽しめるニュースポーツ・レクリエーションの普及
③各種スポーツ大会の開催や参加

(2)スポーツ推進体制・指導体制の整備
①体育協会の体制見直しと各種スポーツ組織の充実
②スポーツ指導者の育成
③各種スポーツ有資格者の後継者育成
④総合型スポーツクラブとの連携強化
⑤トップアスリートから学ぶスポーツ教室の開催

(3)スポーツ・レクリエーション施設の充実
①スポーツ・レクリエーション施設の良好な維持・改修
②年間を通じてスポーツができる施設・設備の充実
③学校体育施設の有効活用

施策の方向性
①「誇り教育」への転換　②学ぶ教育から「貢献する教育」への発展　③山間地で「グローバルな視点を付加する教育」への発展
④ブーメラン人材やアイターン人材を育成する教育」への転換　⑤「保育所・小中学校・只見高校との一貫教育」への発展

只見町のＥＳＤとＳＤＧｓとの関連

＜見方＞

持続可能な開発のための実施手段を強化し，グローバル・パートナーシップを活性化する

１７－１６　すべての国々，特に開発途上国での持続可能な開発目標の達成を支援すべく，知識，専門的知見，技術及び資金源を動員，共有するマルチステークホルダー・パートナーシップによって補完しつつ，持続可能な開発のためのグローバル・パートナーシップを強化する。

１７－１７　さまざまなパートナーシップの経験や資源戦略を基にした，効果的な公的，官民，市民社会のパートナーシップを奨励・推進する。

＜第七次只見町振興基本計画 第２章 Ⅱ 文化に根づく人づくりと学び続けるまちづくり＞

○ 町内外の様々な人や団体とのつながりを大切にし，協働してよりよい社会を創ろうとする町民

○ 町内外の様々な人や団体との協働による持続可能な町づくり

・パートナーシップの重要性についての理解

・持続可能な社会の構築と，効果的なパートナーシップについて関係付ける思考力・判断力

・様々な人や団体とのつながりを大切にしたり，新たなつながりをつくったりしながら，協働して持続可能な町づくりをしていく実践力

学　校　教　育　←連携→　生　涯　学　習

只見町教育大綱　只見町教育振興基本計画との関連

１．将来の只見を担う子どもたちの教育の充実 (1) たくましく自立できる力の基礎となる教育内容の充実 ⇒施策④⑧⑩⑪ (3) 地域の発展と人材の育成を担う県立只見高等学校への支援 ⇒施策②④⑤	２．家庭教育力・地域教育力の向上 (1) 子を持つ親や家庭教育力の向上　⇒施策①②④ (2) 家庭教育の補完機能を果たす地域社会の形成⇒施策② ３．魅力ある生涯学習の推進 (1) 生涯学習体制の充実　⇒施策③④⑤ ４．地域文化の振興 (4) 文化保存環境の整備　⇒施策③

特　色　あ　る　取　組

＜町団体と連携した郷土料理学習　只見小学校＞ 食生活改善推進員と郷土料理を作り食べた。只見の食文化を感じ，それを生かして自分達なりの料理を考えた。	＜ESD パートナー企業・団体＞ 学校教育より始まった ESD を社会教育にも広げること，また ESD を支える役割として，町内企業にパートナーシップを求め，情報の共有や事業の協力を求めている。
＜新聞紙レジ袋の広がり　只見中学校＞ 生徒が作った新聞紙レジ袋を,地域の商店などで利用していただいている。生徒から作り方を教わった地域の方も寄贈をしている。	＜人材リスト「おらほのせんせ」＞ 只見町で活躍する人材や只見学講師，伝統文化の継承者等をリスト化・データ化し，学校や振興センター，教育施設で共有。横の連携を図りながら，町文化の継承や ESD の推進を図る。
＜町外関係団体と連携したＥＳＤの推進＞ ESD／ユネスコスクール東北コンソーシアム 東京大学教育学研究科附属海洋教育センター ESD 活動支援センター 気仙沼市・洋野町　等との連携	＜地域全体で「只見学」を推進＞ 只見学の講座や検定の実施。町の貴重な自然・文化・歴史を学ぶ「只見学」が，町民の ESD 理解につながっている。

只見町で重点的に取り上げるＳＤＧｓのゴールを示しています。

只見町において特に目指していくＳＤＧのターゲットを示しています。

目指すターゲットを踏まえた，目指す町民像や町づくりについて示しています。また，そのために必要な，資質・能力を示しています。

「只見町教育振興基本計画」の中から，目指すターゲットと関連する基本方針・施策を示しています。水色は学校教育，オレンジ色は生涯学習です。

目指すターゲットと特に関連する特色ある取組を取り上げています。水色は学校教育，オレンジ色は生涯学習，緑色は連携した取組です。

3 すべての人に健康と福祉を

あらゆる年齢のすべての人々の健康的な生活を確保し，福祉を促進する

３－４　非感染性疾患による若年死亡率を，予防や治療を通じて３分の１減少させ，精神保健及び福祉を促進する。

３－９　有害化学物質，ならびに大気，水質及び土壌の汚染による死亡及び疾病の件数を大幅に減少させる。

＜第七次只見町振興基本計画 第２章 Ⅱ 文化に根づく人づくりと学び続けるまちづくり＞

○ 地域社会の一員としての自覚を持ち，生涯にわたって健康に生活しようとする町民

○ 社会福祉を大切にし，町民一人一人の健康寿命の延伸を目指した町づくり

・高齢者，障がい者等に関する社会福祉の意義や健康寿命延伸の取組についての理解

・持続可能な社会の構築と，社会福祉や健康寿命の延伸について関係付ける思考力・判断力

・社会福祉や健康寿命の延伸に関する諸課題を主体的に解決していく実践力

学　校　教　育　⇔　連　携　⇔　生　涯　学　習

只見町教育大綱　只見町教育振興基本計画との関連

１．将来の只見を担う子どもたちの教育の充実 (1) たくましく自立できる力の基礎となる教育内容の充実 ⇒施策①③ (2) 教育環境，教育施設・設備の改善・充実 ⇒施策④⑥	５．障害スポーツ・レクリエーションの推進 (1) 生涯スポーツ・レクリエーション活動の充実と健康増進 ⇒施策①②③ (2) スポーツ推進体制・指導体制の整備 ⇒施策①②③④⑤ (3) スポーツ・レクリエーション施設の充実 ⇒施策①②③

特　色　あ　る　取　組

＜チャレンジ６００　只見小学校＞

６００m走のタイムを毎月計測することで，目標をもって体力向上タイムに取り組めるようになった。

＜生涯スポーツの振興＞

老若男女誰でもできるヨガ教室。コロナ禍でもできるようにオンライン配信にて開催。

＜８０２０運動　明和小学校＞

8020 を目標に，歯科衛生士による歯の教室や上級生による歯みがきパトロール等の工夫によって，歯磨きの習慣付けを図っている。

＜総合型スポーツクラブとの連携強化＞

総合型地域スポーツクラブ，体育協会，スポーツ推進委員が連携したニュースポーツ教室の開催。

＜給食センター＞

「質の高い教育」を支えるため，全ての児童生徒に安定的な学校給食を提供。健康と福祉のために果たしている役割について普及啓発。

「食」への意識の向上，地産地消や食品ロスへの取り組みなど，SDGｓと関連させて取り組んでいる。

＜トップアスリートから学ぶスポーツ教室の開催＞

プロ野球コーチを招いての野球・ソフトボール教室の開催。

11 住み続けられるまちづくりを

包摂的かつ持続可能な都市化を促進し，すべての国々の参加型，包摂的かつ持続可能な人間居住計画・管理の能力を強化する。

１１－３　包摂的かつ持続可能な都市化を促進し，すべての国々の参加型，包摂的かつ持続可能な人間居住計画・管理の能力を強化する。
１１－４　世界の文化遺産及び自然遺産の保護・保全の努力を強化する。
１１－ｂ　包含，資源効率，気候変動の緩和と適応，災害に対する強靭さ（レジリエンス）を目指す総合的政策及び計画を導入・実施した都市及び人間居住地の件数を大幅に増加させ，仙台防災枠組 2015-2030 に沿って，あらゆるレベルでの総合的な災害リスク管理の策定と実施を行う。

＜第七次只見町振興基本計画 第２章 Ⅱ 文化に根づく人づくりと学び続けるまちづくり＞

○ 自然災害に対する日常的な備えをし，非常時に適切な行動選択ができる町民
○ 先人から受け継がれてきた文化や歴史，自然を守り，引き継ぎ，それらを生かした持続可能な町づくり
・地域固有の文化や歴史・自然環境と自然災害等の原因及び防災・減災についての理解
・持続可能な社会の構築と，地域固有の文化や歴史・自然環境と自然災害等の原因及び防災・減災について関係付ける思考力・判断力
・地域固有の文化や歴史・自然環境を生かした町づくり，災害に強い町づくりに主体的に取り組む実践力

学　校　教　育　⇔　連　携　⇔　生　涯　学　習

只見町教育大綱　只見町教育振興基本計画との関連

１．将来の只見を担う子どもたちの教育の充実 (1) たくましく自立できる力の基礎となる教育内容の充実 ⇒施策①②⑤ (2) 教育環境，教育施設・設備の改善・充実 ⇒施策③⑦⑧⑨ (3) 地域の発展と人材の育成を担う県立只見高等学校への支援 ⇒施策②④⑤	３．魅力ある生涯学習の推進 (1) 生涯学習体制の充実 ⇒施策①③ (3) 生涯学習施設の整備・充実 ⇒施策① ４．地域文化の振興 (1) 地域文化の振興 ⇒施策①②③④ (2) 文化財の保護と伝承 ⇒施策①②③④ (3) 伝統文化を継承する人材の育成 ⇒施策①②③ (4) 文化保存環境の整備 ⇒施策①②③

特　色　あ　る　取　組

＜地域ゲストティーチャーの活用　只見小学校＞

地域の方をゲストティーチャーとして招き，只見の歴史や文化について学び，現在の只見と関係付けて考えることができた。

＜只見地域の自然・文化・歴史を学ぶ施設の充実＞

ただみ・モノとくらしのミュージアムを拠点とし，只見地域の文化と歴史を学ぶ施設の充実。

＜伝統芸能を学ぶ　明和小学校＞

地区の伝統芸能について地域の方に教えてもらう。先人に対する思いを深め，郷土への誇りも育んでいる。

＜伝統文化・文化財の保護と継承＞

国指定・県指定・町指定文化財を後世に伝えるため，適切な保護と活用を図る。

＜伝統料理を学ぶ　朝日小学校＞

地域の方におひらづくりを教わる。食材に込められた昔の人々の思いと，海とのつながりを実感できる。

＜成人向け SDGｓ講座の実施＞

ＳＤＧｓカードゲームを実施。SDGｓの理念を体感し，意識を高めてもらう。

12 つくる責任 つかう責任

持続可能な生産消費形態を確保する

１２－３　小売・消費レベルにおける世界全体の一人当たりの食料の廃棄を半減させ，収穫後損失などの生産・サプライチェーンにおける食料の損失を減少させる
１２－５　廃棄物の発生防止，削減，再生利用及び再利用により，廃棄物の発生を大幅に削減する。
１２－８　人々があらゆる場所において，持続可能な開発及び自然と調和したライフスタイルに関する

＜第七次只見町振興基本計画 第２章 Ⅱ 文化に根づく人づくりと学び続けるまちづくり＞

○ 消費生活に関する自己のよりよいスタイルを考え,環境に配慮した生活をしようとする町民
○ 資源が循環する環境にやさしい町づくり
・よりよい消費生活や資源活用,環境破壊や限りある資源についての理解
・持続可能な社会の構築と,消費生活や資源活用ついて関係付ける思考力・判断力
・消費生活や資源活用に関する諸課題を主体的に解決し,環境に配慮して生活をする実践力

学　校　教　育　⇔　連　携　⇔　生　涯　学　習

只見町教育大綱　只見町教育振興基本計画との関連

１．将来の只見を担う子どもたちの教育の充実 (1) たくましく自立できる力の基礎となる教育内容の充実 ⇒施策①②⑨ (2) 地域の発展と人材の育成を担う県立只見高等学校への支援 ⇒施策②④⑤	３．魅力ある生涯学習の推進 (1) 生涯学習体制の充実 ⇒施策①②④ (3) 生涯学習施設の整備・充実 ⇒施策① ４．地域文化の振興 (3) 伝統文化を継承する人材の育成 ⇒施策①②

特　色　あ　る　取　組

＜年中行事体験　只見小学校＞

生活科の学習で，家族と団子さしの団子を作り，ミズノキに飾り付けることで，伝統的な年中行事のよさを感じていた。

＜伝統工芸の後継者育成＞

町内３小中学校で伝統工芸であるつる細工を学び 後継者を育成。自然を生かしたモノづくりと生活について体験する学びの場の設定。

＜PET Free Monday　只見中学校＞

プラスチックゴミを減らすため，ペットボトル飲料を飲まない日を週に１度設定する「PET Free Monday」を実施。マスコットキャラクターをつくり呼びかける。

＜文化財から持続可能な消費生活を考える＞

国指定民具２，３３３点及び指定外民具約８，０００点を活用し,先人の資源を生かした生活を学ぶなど,モノから消費を考える学びを設定。

＜只見中学校と連携した新聞紙レジ袋づくり講座＞

町民のＳＤＧｓへの意識を高めること,プラスチックごみを削減することを目指し,只見中学校で作成している新聞紙レジ袋を作成する講座を,只見中学校生徒を講師に実施。オンライン配信により,広く発信。

この取組をさらに,高齢者施設や障がい者団体等にも広げていきたい。

気候変動及びその影響を軽減するための緊急対策を講じる

１３－１　すべての国々において，気候関連災害や自然災害に対する強靭性（レジリエンス）及び適応力を強化する。

１３－３　気候変動の緩和，適応，影響軽減及び早期警戒に関する教育，啓発，人的能力及び制度機能を改善する。

＜第七次只見町振興基本計画 第２章 Ⅱ 文化に根づく人づくりと学び続けるまちづくり＞

○ 気候変動により起こる自然災害のために適切な行動選択ができる町民

○ 気候変動の緩和・適応・影響軽減を実現するための，環境に配慮した持続可能な町づくり

・気候変動により起こる自然災害やその際の適切な行動と気候変動の緩和・適応・影響軽減についての理解

・持続可能な社会の構築と，気候変動やそれにより起こる自然災害について関係付ける思考力・判断力

・気候変動の緩和・適応・影響軽減を考慮した生活を送ったり，環境に配慮した町づくりに主体的に取り組んだりする実践力

学　校　教　育　←**連　携**→　**生　涯　学　習**

只見町教育大綱　只見町教育振興基本計画との関連

１．将来の只見を担う子どもたちの教育の充実 (1) たくましく自立できる力の基礎となる教育内容の充実 ⇒施策①②⑤	３．魅力ある生涯学習の推進 (1) 生涯学習体制の充実 ⇒施策①②④ (3) 生涯学習施設の整備・充実 ⇒施策① ４．地域文化の振興 (3) 伝統文化を継承する人材の育成　⇒施策①②

特　色　あ　る　取　組

＜水害出前講座　只見小学校＞

南会津建設事務所，砂防ボランティア協会の方々による水害出前講座を実施し，土砂災害について理解を深めた。

＜温暖化対策ワンステップアクション　朝日小学校＞

「ワンステップアクション」を全校生で実施，身近で継続性のある地球温暖化対策に取り組む。町役場でも提案。

＜米作り体験から学ぶ　明和小学校＞

田植えや稲刈り体験だけでなく，農家の方の思いやマイクロプラスチックの問題等，環境に配慮した米作りについて学んでいる。

＜水害の語り部活動　只見中学校＞

地域合同防災訓練において水害の語り部活動を行っている。小学生に,被害の様子や今後の対策を伝えている。

＜只見中学校・朝日小学校と連携した地域合同防災訓練＞

朝日小学校・只見中学校・朝日振興センターが連携して地域合同防災訓練を行っている。平成２７年７月新潟・福島豪雨の洪水被害や防災用品の使い方，応急手当てなどについて学び，防災意識を高めている。

14 海の豊かさを守ろう

持続可能な開発のために海洋・海洋資源を保全し，持続可能な形で利用する

１４－１　海洋堆積物や富栄養化を含む，特に陸上活動による汚染など，あらゆる種類の海洋汚染を防止し，大幅に削減する。

１４－２　海洋及び沿岸の生態系に関する重大な悪影響を回避するため，強靭性（レジリエンス）の強化などによる持続的な管理と保護を行い，健全で生産的な海洋を実現するため，海洋及び沿岸の生態系の回復のための取組を行う。

＜第七次只見町振興基本計画 第２章 Ⅱ 文化に根づく人づくりと学び続けるまちづくり＞

○ 山間部に住む自分達の生活が，海を始め地球全体の環境に影響を及ぼしていることを理解し，適切な行動選択ができる町民

○ 地球規模の視野に立ち環境に配慮した持続可能な町づくり

・海洋汚染の現状や気候変動，山間部に住む自分達の生活がそれらに影響を及ぼしていることについての理解

・持続可能な社会の構築と，海洋汚染や気候変動について関係付ける思考力・判断力

・海洋汚染や気候変動の解決のため，環境に配慮した町づくりに主体的に取り組んだりする実践力

学　校　教　育　　連　携　　生　涯　学　習

只見町教育大綱　只見町教育振興基本計画との関連

１．将来の只見を担う子どもたちの教育の充実 (1) たくましく自立できる力の基礎となる教育内容の充実 ⇒施策①②⑤	３．魅力ある生涯学習の推進 (1) 生涯学習体制の充実 ⇒施策①② (3) 生涯学習施設の整備・充実 ⇒施策① ４．地域文化の振興 (2) 文化財の保護と伝承 ⇒施策④ (3) 伝統文化を継承する人材の育成 ⇒施策①②

特　色　あ　る　取　組

＜外部講師の講演会　只見小学校＞

環境大臣表彰を受けた，橋本孝一先生に講演を行っていただいた。只見の豊かな水環境を守るために，自分たちにできることを考えた。

＜海の恵みを実感する交流学習　朝日小学校＞

海洋交流学習では，海での体験を行う。海の恵みを実感するとともに，海洋ごみ等の問題にも気付くことができる。

＜海につながる川の学習　明和小学校＞

伊南川や黒谷川に留まらず下流の海岸までの探究学習を通して，海を意識した環境への配慮が必要なことを学んでいる。

＜海辺の清掃活動　只見中学校＞

海洋実習や修学旅行で海浜清掃を行っている。川を通して只見町と海が繋がっていることを体験しながら学んでいる。

＜ESD・海洋教育講演会＞

全町民を対象に，ESD や海洋教育に関わる講演会を開催

・一般社団法人日本キリバス協会代表理事　ケンタロ・オノ氏

・気象庁福島地方気象台調査官　清野博樹氏

15 陸の豊かさも守ろう

陸域生態系の保護，回復，持続可能な利用の推進，持続可能な森林の経営，砂漠化への対処，ならびに土地の劣化の阻止・回復及び生物多様性の損失を阻止する

１５－１　国際協定の下での義務に則って，森林，湿地，山地及び乾燥地をはじめとする陸域生態系と内陸淡水生態系及びそれらのサービスの保全，回復及び持続可能な利用を確保する。

１５－４　持続可能な開発に不可欠な便益をもたらす山地生態系の能力を強化するため，生物多様性を含む山地生態系の保全を確実に行う。

１５－５　自然生息地の劣化を抑制し，生物多様性の損失を阻止し，絶滅危惧種を保護し，また絶滅防止するための緊急かつ意味のある対策を講じる。

＜第七次只見町振興基本計画 第２章 Ⅱ 文化に根づく人づくりと学び続けるまちづくり＞

○ 只見町の自然環境を保護・保全・調査・研究しながら，地域の資源を活かして，持続可能なまちづくりを目指す町民

○ 地球規模の視野に立ち，環境に配慮した持続可能な町づくり

・人間社会と自然環境の共生を実践するモデル地域である「只見ユネスコエコパーク」についての理解

・持続続可能な社会の構築と，只見町の自然環境やその保護・保全について関係付ける思考力・判断力

・只見町の自然環境を保護・保全・調査・研究しながら，地域の資源を活かした町づくりに主体的に取り組む実践力

学　校　教　育　⇔　連　携　⇔　生　涯　学　習

只見町教育大綱　只見町教育振興基本計画との関連

１．将来の只見を担う子どもたちの教育の充実 (1) たくましく自立できる力の基礎となる教育内容の充実 ⇒施策①②⑤	３．魅力ある生涯学習の推進 (1) 生涯学習体制の充実 ⇒施策①② (3) 生涯学習施設の整備・充実 ⇒施策① ４．地域文化の振興 (2) 文化財の保護と伝承 ⇒施策③④ (3) 伝統文化を継承する人材の育成 ⇒施策①② (4) 文化保存環境の整備 ⇒施策①②③

特　色　あ　る　取　組

＜水の郷学習会 in 只見　只見小学校＞

学校の近くにあるビオトープに住む生き物を調査し，その豊かさや多様性を実感することができた。

＜町民参加型ゴミ拾いボランティア活動の実施＞

地区振興センターで実施。只見の自然を保護・保全し，環境に配慮した持続可能なまちづくりに対する意識を醸成する。

＜校庭の秋を探す　朝日小学校＞

校庭にある栃の木を題材に，栃の実の活用などを知り，身近にある豊かな自然の素晴らしさを感じることができた。

＜ただみ・ブナと川のミュージアム＞

BR の目的達成のため，只見の自然環境や生物多様性についての学術調査研究，教育，人材育成を行っている。町内学校との連携も。

＜ブナの森の散策　明和小学校＞

森の案内人の方と癒しの森や恵みの森等，雄大なブナの森を散策する。豊かな自然への学びや愛着を高めている。

＜自然を利用したホウキ作り　只見中学校＞

各家庭にコキアの苗を持ち帰り育てている。さらに近くの山林からアカソを刈り取り加工して,ホウキを作っている。

16 平和と公正をすべての人に

持続可能な開発のための平和で包摂的な社会を促進し，すべての人々に司法へのアクセスを提供し，あらゆるレベルにおいて効果的で説明責任のある包摂的な制度を構築する

１６－２　子どもに対する虐待，搾取，取引及びあらゆる形態の暴力及び拷問を撲滅する。
１６－１　あらゆるレベルにおいて，対応的，包摂的，参加型及び代表的な意思決定を確保する。

＜第七次只見町振興基本計画 第２章 Ⅱ 文化に根づく人づくりと学び続けるまちづくり＞

○ 他者の人権を尊重し，他者と協働しながら持続可能な町づくりに主体的に参加しようとする町民
○ 一人一人の人権が尊重され，全ての町民が意思決定に関わることのできる町づくり
・平和や正義を重んじ，差別や偏見の無い社会とそれを実現するための方策についての理解
・持続可能な社会の構築と，公平で公正な社会の実現について関係付ける思考力・判断力
・地域社会の一員として，平和で差別や偏見の無い町づくりに主体的に取り組む実践力

学　校　教　育　⇔　連　携　⇔　生　涯　学　習

只見町教育大綱　只見町教育振興基本計画との関連

１．将来の只見を担う子どもたちの教育の充実 (1) たくましく自立できる力の基礎となる教育内容の充実 ⇒施策①②⑥⑦⑫ (2) 教育環境，教育施設・設備の改善・充実 ⇒施策①	２．家庭教育力・地域教育力の向上 (1) 子を持つ親や家庭教育力の向上 ⇒施策①② (2) 家庭教育の補完機能を果たす地域社会の形成⇒施策①②③ ３．魅力ある生涯学習の推進 (1) 生涯学習体制の充実 ⇒施策③ (3) 生涯学習施設の整備・充実 ⇒施策②③④

特　色　あ　る　取　組

＜人権教育強化月間　只見小学校＞

６月，12 月を人権教育強化月間とし，ブックトークや人権標語を考える活動を行い，人権に対する意識の向上を図った。

＜放課後子育て事業＞

子どもの安全・安心な居場所づくりのための放課後子育て事業の充実。放課後子どもクラブとして週５日開催。

＜あさひの木の花運動　朝日小学校＞

JRC 委員会が行う「あさひの木の花」運動では，友達のよさを積極的に認め合う他者理解の経験を日常的に行っている。

＜親子教室の開催＞

親子のコミュニケーションやメディアコントロール等に関する親子対象講座の実施。家庭教育力の向上を図っている。

＜特別支援教育の推進＞

共生社会の形成に向けて，特別支援学級や通級指導教室の設置，各校への支援員の配置など，インクルーシブ教育（障がいのある者と障がいのない者が共に学ぶ仕組み）の推進を図っている。

＜明和小学校＞

地域企業の研修生（外国人）と交流することを通して，多様な価値観や文化にふれ，グローバルな見方･考え方の素地を育む。

持続可能な開発のための実施手段を強化し，グローバル・パートナーシップを活性化する

１７－１６　すべての国々，特に開発途上国での持続可能な開発目標の達成を支援すべく，知識，専門的知見，技術及び資金源を動員，共有するマルチステークホルダー・パートナーシップによって補完しつつ，持続可能な開発のためのグローバル・パートナーシップを強化する。

１７－１７　さまざまなパートナーシップの経験や資源戦略を基にした，効果的な公的，官民，市民社会のパートナーシップを奨励・推進する。

＜第七次只見町振興基本計画 第２章 Ⅱ 文化に根づく人づくりと学び続けるまちづくり＞

○ 町内外の様々な人や団体とのつながりを大切にし，協働してよりよい社会を創ろうとする町民

○ 町内外の様々な人や団体との協働による持続可能な町づくり

・パートナーシップの重要性についての理解

・持続可能な社会の構築と，効果的なパートナーシップについて関係付ける思考力・判断力

・様々な人や団体とのつながりを大切にしたり，新たなつながりをつくったりしながら，協働して持続可能な町づくりをしていく実践力

学　校　教　育　　連　携　　生　涯　学　習

只見町教育大綱　只見町教育振興基本計画との関連

１．将来の只見を担う子どもたちの教育の充実 (1) たくましく自立できる力の基礎となる教育内容の充実 ⇒施策④⑧⑩⑪ (3) 地域の発展と人材の育成を担う県立只見高等学校への支援 ⇒施策②④⑤	２．家庭教育力・地域教育力の向上 (1) 子を持つ親や家庭教育力の向上 ⇒施策①②④ (2) 家庭教育の補完機能を果たす地域社会の形成⇒施策② ３．魅力ある生涯学習の推進 (1) 生涯学習体制の充実 ⇒施策③④⑤ ４．地域文化の振興 (4) 文化保存環境の整備 ⇒施策③

特　色　あ　る　取　組

＜町団体と連携した郷土料理学習　只見小学校＞

食生活改善推進員と郷土料理を作り食べた。只見の食文化を感じ，それを生かして自分達なりの料理を考えた。

＜ESD パートナー企業・団体＞

学校教育より始まった ESD を社会教育にも広げること，また ESD を支える役割として，町内企業にパートナーシップを求め，情報の共有や事業の協力を求めている。

＜新聞紙レジ袋の広がり　只見中学校＞

生徒が作った新聞紙レジ袋を,地域の商店などで利用していただいている。生徒から作り方を教わった地域の方も寄贈をしている。

＜人材リスト「おらほのせんせ」＞

只見町で活躍する人材や只見学講師，伝統文化の継承者等をリスト化・データ化し，学校や振興センター，教育施設で共有。横の連携を図りながら，町文化の継承や ESD の推進を図る。

＜町外関係団体と連携したＥＳＤの推進＞

ESD／ユネスコスクール東北コンソーシアム
東京大学教育学研究科附属海洋教育センター
ESD 活動支援センター
気仙沼市・洋野町　　等との連携

＜地域全体で「只見学」を推進＞

只見学の講座や検定の実施。町の貴重な自然・文化・歴史を学ぶ「只見学」が，町民の ESD 理解につながっている。

只見町小中学校の取組

Ⅰ　只見小学校

Ⅱ　朝日小学校

Ⅲ　明和小学校

Ⅳ　只見中学校

只見町のＥＳＤ

ふるさと只見を愛し，誇りに思う心を育てるＥＳＤ
ふるさとのよさを学び，課題を見つめ，未来を切り拓く力へ

只見町のＥＳＤの目標

世界の平和を守っていく（ＳＤＧｓの達成に寄与できる）人材育成の土台として，只見愛をもち，ふるさとの豊かな存続に寄与できる人材を育成する。

＜只見町の教育が目指すＳＤＧｓの重点＞

健康福祉	教　育	まちづくり	陸の豊かさ	海の豊かさ	作る・使う	気候変動	平和と公正

只見町ＥＳＤの広がりと深まり

学習指導要領で求められる資質・能力の高まり

ＥＳＤで育みたい能力・態度の高まり

只見愛の深まり

知識・視野の広がり

只見の自然や文化に親しむ

只見の自然や文化を知る

自然や文化を守る

自然との共生

自然を利用する

ユネスコエコパークを通して学ぶ

様々な機関と連携する

海洋教育の視点を付加する

○ 只見町の自然や文化に浸る。
○ 只見町の「もの・ひと・こと」から，自然との共生について学ぶ。
○ 地域の課題を見つめ直し，地域の未来を考え，実行する。

○ 只見町民（ＥＳＤパートナー企業・団体）
○ 只見町社会教育施設や学芸員
○ 町外ユネスコスクールやＥＳＤ実践校・自治体
○ 海洋教育学会

○ 海や川で体験活動や調査をする。
○ 地球規模の水循環と自分達との関わりについて学ぶ
○ 地球規模の視点から地域を見つめ直し，地域の未来を考え，実行する。

只見町のＥＳＤで目指す子ども達の姿

世界の平和を守っていく人材育成の土台として，ふるさと只見愛をもち，ふるさとの豊かな存続に寄与できる人材

	自然との共生				身につけさせたい力
	親しむ	知る	守る	利用する	
只見高校	ふるさと只見愛をもとに，ふるさとや世界の豊かな存続を意識し，実践しようとする人材 ・地域協働推進校としてＥＳＤの実践（コーディネーター） ・山村教育留学制度　・レインボープランの推進				
只見中学校	地球の自然や文化，人々の素晴らしさ，持続可能な社会という視点からの課題に気付き，進んで関わろうとする。	町内外の自然や文化等におけるつながり，地球規模の環境問題など，只見町や我が国，地球全体が抱える課題について多面的に理解する。	ふるさとを愛し守ること，地球を守ることは相互に関係し合っていることを理解し，自然や文化を守るための取組を考えて実行する。	只見町の自然や文化を生かしながら，持続可能な只見町，持続可能な世界をつくる取組を考え，発信したり，実行したりする。	様々な能力態度を総合的に発揮し，実践する力 批判的に考え，創造する力
小学校 高学年	只見町の自然や文化，人々の素晴らしさ，持続可能な社会という視点からの課題に気付き，進んで関わろうとする。	町内外の自然や文化，人々の暮らしなど，自分達が地球規模の循環社会の中で生活していることを理解する。	只見町の自然や文化，人々を大切に思う気持ちをもち，それらと関わったり，守るための取組を考えて実行したりする。	只見町の自然や文化を生かしながら，持続可能な只見町をつくる取組を考え，発信したり，実行したりする。	多面的･総合的に考える力 未来を予測して計画を立てる力 自ら実践する力
小学校 中学年	只見町の自然や文化，人々の素晴らしさに気付き，進んで関わろうとする。	只見町の自然や文化，人々と自分とのつながりを理解する。	只見町の自然や文化，人々を大切に思う気持ちをもち，それらに関わる。	只見町では自然を利用して生活したり，文化が生まれたりしていることに気づく。	情報収集･分析する力 コミュニケーションを行う力
小学校 低学年	自分の住む地域の自然や文化，人々に愛着をもつ。	自分の住む地域の自然や文化を理解する。	自分の住む地域の自然や文化，人々を大切に思う気持ちをもつ。	自分の住む地域の自然を利用して遊んだり，生活を楽しくしたりする。	つながりを尊重する態度 他者と協力する態度 進んで参加する態度

只見町の取組

・町小中各校におけるＥＳＤの研究実践と公開
・町外ＥＳＤ実践校やユネスコスクール等との交流，町内パートナー企業・団体等との連携
・只見学の推進（只見おもしろ学ガイドブック活用・只見おもしろ学検定）
・町社会教育施設の活用（ただみ・ブナと川のミュージアム，ただみ・モノとくらしのミュージアム等）
・地域と学校との協働活動の充実

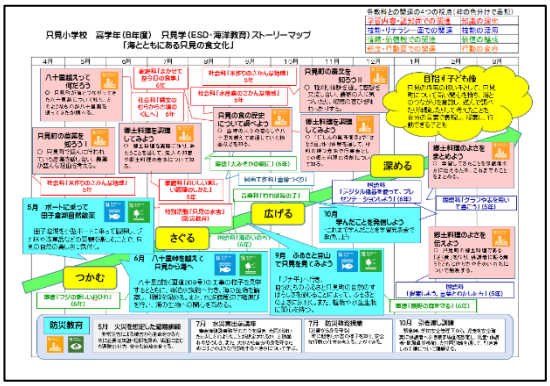
Ⅰ　只見小学校の実践

1　実践名

ふるさと只見，そして日本の未来を拓くたくましい子どもの育成
～　海とのつながりを通して，地域と自分と未来を見つめ，考え，行動する　～

2　実践の概要

本校では，上記のテーマのもと，ＥＳＤの実践に取り組んできた。その際，コミュニティスクールの機能を生かし，地域の方々にも協力していただきながら，只見学（只見の「人・もの・こと」とふれ合いながら学ぶことを通して，自分に自信をもったり，地域に誇りと愛着をもったりして，自己の夢や目標に向かって努力することができる児童を育む教育活動）や海洋教育といった視点を大切に以下の様な実践に取り組んできた。



＜高学年のストーリーマップ＞

(1)　ＥＳＤ推進のためのカリキュラムマネジメント

生活科・総合的な学習の時間と各教科との関連を確認したり，目標や見通しをもったりしながら学習に取り組めるように，具体的な学習内容を示した「ストーリーマップ」を作成し，活用方法を工夫する。

(2)　子どもの学びや思いを生かした授業実践

子どものこれまでの学びや思いや願い，問いなどをこれからの学びに生かすために，それらを可視化したり，教師の見取りを工夫したりする。

(3)　地域資源の教材化

子どもたちがふるさと只見に誇りと愛着をもち，主体的に学び続けることができるように，只見の豊かな自然だけでなく，人材や施設，伝統文化といった学びの資源となり得るものを教材として活用する。

3　成果と課題

- 年度当初の高学年のストーリーマップでは，子どもたちの学びを「郷土料理について知り，調理し，そのよさを伝えていくもの」として構想していた。しかし，子どもたちの実態とＥＳＤ・海洋教育の視点から「地域の食材を大切にしながらも，海との関わりから，食材や調理法などを考え，現代から未来へ受け継いでいくことができるオリジナル料理をつくり，発信していくこと」と，子どもたちと計画した。そうすることで，子どもたちと教師が目標を共有し，見通しをもって，主体的に学習に取り組むことができた。

＜子どもたちが作った料理＞

今後も，子どもの思いや問い，願いなどを大切にしながら，子どもが自ら学び進めたくなるような，学び続けたくなるようなストーリーを考えていきたい。

- 本校の子どもたちは，只見の自然を誇りに思い，大切にしていきたいという思いをもっている。しかし，それは，清らかな川の流れと豊かな森林資源，そこで育まれてきた文化や紡がれてきた歴史，それらを伝承してきた人々についての理解に基づくものとまでは至っていない。そこで，只見の自然や生き物に詳しいブナセンターの方や郷土料理に詳しい地域の方々をゲストティーチャーとして招き，お話を伺ったり，対象と直接関わる体験活動を行ったり

してきた。そうすることで，子どもたちは只見への思いや願い，問いなどをもち，対象に繰り返し関わり，主体的に学び続け，ふるさと只見への誇りや愛着を強いものにしていった。

今後は，子どもたちが学びをさらに深めることができるよう，只見町地域連携協働本部や地域連携コーディネーターとの連絡体制を確立し，ゲストティーチャーをさらに効果的に活用できるようにしていきたい。

＜ゲストティーチャーとの調理＞

４　主な実践の様子

⑴　全校で豊かな水とその循環を体感する「田子倉湖散策」「八十里を越えて海へ」

５月下旬，学区内にある，日本有数の貯水量を誇る田子倉湖の散策を行った。いまだ解けきっていない大きな雪の塊や湖上からしか見ることのできないアイヨシの滝を間近で見たり，直接触ってみたりすることで「きれい」「冷たくて，気持ちいい」と「水の郷只見」のゆえんを体感することができた。また，子どもたちは，雪の塊から溶けて流れ落ちる水を見て「これが只見川になるんだ」「どこまで流れていくのかな」と，水の行く末について思いを馳せていた。

＜モーターボードでの散策＞

６月下旬，田子倉湖から流れ出た水の行方を追いかけ，日本海へ向かった。田子倉湖に流れ落ちた雪解け水からは想像もできないほどのどこまでも広がる海に子どもたちは感動を抑えきれずにいた。そこでは，低学年は浜辺で思いっきり遊び，中学年は生き物を調べ，高学年は海岸の様子や水質などについて調べるなど，それぞれの活動に取り組むことができた。その後，マリンピア日本海を見学した。子どもたちは，ふだんは出会うことのできない海の生き物を間近に見ることができた。

＜ワカメ？見つけた！＞

⑵　只見の自然の豊かさ，雄大さ，多様性を実感する「ふるさと登山」

９月上旬，１～３学年が「恵みの森」，４～６学年が「ブナ平」に出かけた。恵みの森では案内人の方に同行していただき，沢を流れる美しく豊かな水を全身で感じ，その水が育む雄大な森林とそこに住む多様な生き物と触れ合うことで，ふるさと只見への愛着を強くしていった。ブナ平でも，案内人の方に，植物や生き物について説明をしていただきながら山を登り，只見の自然を満喫しながら，活動を進めることができた。

＜恵みの森にて＞

＜ブナ平にて＞

⑶　「生活科・総合的な学習の時間を中心としたＥＳＤ・海洋教育の実践」

１･２年	３･４年	５･６年
「只見の人や自然を感じよう」 自然豊かな只見の四季について調べたり体験活動を行ったりした。只見の人と触れ合うことを通して，只見の自然のすばらしさや人の温かさを感じることができた。	**「森の植物や生き物をさがそう」** 下福井観察の森に出かけ，様々な樹木や葉の特徴を観察した。森の案内人の方々から詳しい説明を受けながら，樹木によって葉の大きさや形，木の模様が異なることを知ることができた。	**「海とともにある只見の食文化」** 郷土料理には，地域の食材と海の幸が使われていることを学んだ。それを基に自分たちなりの料理を作ることで，食を通して只見町でどのように生きていくのか考えることができた。

Ⅱ　朝日小学校の実践

1　実践名

つながりの中で育む「只見愛」　未来へ向かって行動できる子供の育成 ～児童の主体性を高めるコーディネートの在り方とその実践に向けて～

2　実践の概要

本校がこれまで推進してきた，「生活科や総合的な学習を中心とした只見の「人・もの・こと」に直接触れる郷土学習『只見学』を中核とした，自分への自信や只見町への誇り，生涯にわたって学び続ける意欲『只見愛』の育成」を大切にしながら，自分たちのふるさとの課題と，その解決方法を主体的に考え，自ら行動する資質や能力を育成していくとともに，ふるさとの危機と地球環境や海洋の問題との関わりに気付き，自分たちの問題として捉えていく資質や能力についても育成していくことを目標とした。そのために，児童自身がより主体的に課題に向き合うことができるような教師のコーディネート力向上を今年度の副題として実践を重ねた。

3　成果と課題

○　低学年においては，コロナ禍にあっても可能な限り，身近な自然や町のよさ，自慢したいことについて自ら調べ，体験する活動を行ったことにより，自分たちの周りにある環境の素晴らしさや，それに携わる人々の努力などに気付くことができ，ふるさとへの愛着を高め海洋教育への土台を作ることができた。

○　中学年においては，只見町の自然に実際にふれたり，ゲストティーチャーの話を聞いたり，水質調査をしたりすることで美しい自然や多くの生き物を支えている豊かな森と水の存在に気付くことができた。また，教科横断的にカリキュラムを編成したことで，理科や社会科で学ぶ水の循環と関連付けて只見の自然の大切さを考えることができた。さらに，こうした貴重な自然を脅かす地球環境問題の存在にも視野を広げることができた。

○　高学年においては，昨年度の学びを生かして只見町の現状と課題に目を向け，只見町の今と未来について考えてきた。只見町が誇る文化や自然・産業を，歴史的・地理的背景から調べ，海洋交流学習において四倉小へ紹介することができた。さらに「持続可能な」視点で考えた時，地球環境問題に対して主体的に行動を起こす必要性を実感し，その一歩を企画・実践することができた。

●　教員の ESD・海洋教育に対する理解はかなり高まってきている。一方で，児童自身には，まだまだ ESD や海とのつながりを実感できる場面が日常生活において不足しているようである。児童アンケートにおいて，「ESD を知っている」という回答が低い現状を改善するため，ESD を意識できる様々な取組み（例えば，「ワンステップアクション（後述）」を全校生で継続的に取り組んでいく等）を校内で企画・実践していく必要がある。

●　これまでも意欲的に取り組んできた海とのつながりを意識させられるような単元構想や授業の工夫を今後も継続していく必要がある。そのため，地域の「人・もの・こと」に対する教師自身の理解を高めるために自ら地域に足を運び，ふるさと学習の教材開発を進めたい。

４　主な実践の様子

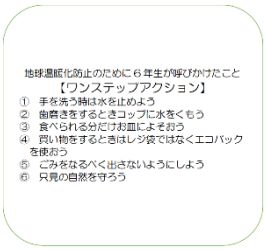
（１）　全校生で川を体感する「なかよし活動」

本校では，７月に全校生で学区内を流れる黒谷川での川遊び体験を行っている。地域の方を講師に招き，縦割り班ごとに，６年生の班長を中心として，川の楽しみ方を教えていただいた。生き物を見つけたり，川の中にあるきれいな石を拾ったり，川流れを体験したりする中で，豊かで美しい自然を実感することができた。また，

イワナつかみ体験をし，そのイワナを塩焼きにして食べた。美しく，豊かな川の恵みを体いっぱいで味わうことを通して，それを大切に守っていこうという意識を高めるとともに，川が海へとつながっていくことから，海について考え，学んでいくことの基盤づくりを行うことができた。

また，春の遠足では今年度から田子倉湖ボート散策を行い，只見の雄大な自然を直接実感できる経験を増やすことができた。

（２）　地球環境問題・温暖化対策としての提案（６年生）



６年生は，只見のよいところを知る一方で，それが今後も持続可能なものとして存在できるかどうかという視点で学びを進めた。農家の方のお話から，只見町にも地球温暖化の影響が表れていることに気付いた子供たちは，問題の原因となる二酸化炭素に着目した。日常生活の中でこれを削減するために，自分達にも無理なく継続できることがないかを考え，「ワンステップアクション」という形で取組をまとめた。学習発表会で保護者の方へ提案し，さらに校内でも期間を定めて全校生で取り組んだ。この成果を福島議定書（学校版）に報告するとともに，「より多くの人に，より長い期間継続して行動してもらえれば，もっと大きな成果につながる」と確信した児童は，地域のゴミ拾いボランティア活動に参加をして，地域の方へも協力を呼びかけた。

さらに，町内にこの運動を知ってもらいたいと願い，町長さんを始めとする幹部の方々へ直接訴えかけるために役場訪問も行った。全国海洋教育サミットでは，自分たちの実践を具体的に紹介・提案するとともに，只見を守るためには海を守らなければならず，海を守ることが只見を，そしてもっと広い地域を守っていくことになると力強く発信することができた。議定書で最優秀賞を受賞したことで，

内堀県知事にも実践の報告と活動のさらなる拡大を願う場を得られ，子供たちの発信は，学校，地域，町内，県内そして全国へと広がった。

地域成果発表会では，こうした学びと実践をもとに，今後の只見を守る仲間としてみんなの協力を訴えるとともに，この活動を継続していくことを宣言することができた。５年生を中心として，次年度以降も活動を継続・改善していくことになる。

Ⅲ　明和小学校の実践

1　実践名

学び続けながら自立へと歩みを進めていく子どもの育成 ～多面的な見方を通して感動に出会わせるＥＳＤ・海洋教育～

2　実践の概要

本校では，生活科・総合的な学習の時間を中心に，これまでに培ってきたＥＳＤの成果を基盤とし，地域から海洋へと視野を広げ，自然・環境・歴史・文化など，多様な角度から学習を展開すれば，一層郷土への誇りと愛情を育み，広い視野を持ってその未来に貢献できる児童を育成できるであろうと考え，海洋教育を実践している。これは，「人と自然の共生」を目指す故郷只見に誇りと愛情を持ち，持続可能な地域や社会の担い手として必要な「能力・態度」を身に付けた児童を育成する取組であると位置づけている。

令和３年度からは児童の課題改善に向けた取組として、「自分の考えを持ち、友達の考えのよさを認めつつ、時に批判的な見方で考え交流する主体的な姿」を目指し、「海」から自分達の地域を見るという視点を加えて地域を見つめ直すことを取り入れた実践をしている。自ら問いを見い出し主体的に追究・解決していく姿を求め、地域素材を活用した体験を重視することや感動を伴った地域理解につながるような指導の充実を図った。さらに、児童が自分たちの生活拠点である山間部のもつ様々な「人・もの・こと」の価値に気付き，地域理解を深めていくよう，また、海から見た地域の役割等グローカルな視点で自分達の生活や生き方を捉え直すことによって持続可能な社会づくりへの意識を高めることができるようにしたいと考え、実践を進めている。

3　成果と課題

○　地域の特色を生かしたカリキュラムマネジメントに児童の思いや願いを反映させたことにより，対象との出会わせ方や導き方に工夫を加えた単元構想を描くことができた。また、教科横断的に各々の教育活動について、教師自身が「海」を意識した広い視野で見直し，価値付け，つないでいくことで，児童の思考がより広がったり高まったりした。

○　「海を通して地域を学ぶ」という軸をもち，子どもの思考に寄り添った体験活動を通した学びを重視した単元構想によって，「体験する→気付いたことを話し合う中で新たな課題を見つける→探究する」という児童の知的好奇心を基に学びの方向性を見取り生かした学習のサイクルができ、主体的な学びへとつながった。

○　多様な見方・考え方に気づかせるために、学習の中での児童の考えを意図的に可視化した。それによって主体的に自分の考えと友達の考えを比較・検討したり、個々の学びを関連付けて考えたりする思考へと高まった。児童の思考を可視化するような教師の手立てが，学びの深まりを導き、変容に気づかせることで学びや成長の自覚化につなげることができた。

●　児童の主体的な学びへとつなげるために少人数教育のメリットを生かした個の見取りの在り方や生かし方について明らかにし，カリキュラムマネジメント、単元構想に生かしていく。

●　多面的な見方を育むために、教師自身が多面的な視点で物事を捉えたり、柔軟に視野を広げたりして生活し、児童に考えさせる視点を豊富に準備していけることが重要である。

４　主な実践の様子（令和３年度の実践より）

（１）　研究を支えるESDの取組　伝統芸能の継承

＜小林早乙女の発表＞

明和地区には，県重要無形文化財に指定されている数百年の歴史を持つ伝統芸能「小林早乙女踊り」「梁取神楽」が連綿と受け継がれており，保存会を中心に今でも継承されている。

本校では，３年生が「小林早乙女踊り」，４年生が「梁取神楽」，これに１・２年生の「大倉八木節」を加え，教育課程に位置付けて体験している。児童は，地域の方々に手取り足取り直接習い身に付けていき，平成28年度から設定された「伝統芸能発表会」において，地域の方々に発表する。児童の姿を見る地域の方々の目は温かい。しかし、少子高齢化の影響もあり，伝統芸能の先行きの不安はぬぐえない。学校での取組は，伝統芸能の継承の一助として地域の方々の要望でもある。この取組は，地域と学校のよりよい関係の構築へとつながっている。

（２）　「只見の自然を探ろう！」（３・４年生）

＜下福井観察の森での学習＞

単元構想段階で，児童に「只見の自然はなぜなくならないのか」という疑問が生まれたことから出発した学習である。課題解決のために自然観察や自然ガイドの方にインタビューするなどして調べる計画を立てて学習を進めた。

下福井観察の森を散策した際には，ゲストティーチャーとしてブナセンターの方に同行していただき，「種が飛ぶから自然がなくならないのではないか？」「地形が関係しているからではないか？」等の児童の疑問に関連する情報を得ながら思考する機会とした。その中で，自然を守っている人の存在に気付き，下福井の自然は，植物自身の強い生命力だけでなく，地域の人たちがその豊かさに誇りをもち，後世に伝えていくために保全活動にも取り組んできたことを理解した。さらに，只見の他の森も誰かが保全活動を行って守られてきたのか，新たな問いを見い出すことにつながり，児童の問いを基にした学びが継続していった。

（３）　「只見の川から海へ」（６年生）

＜日本海海岸沿いのゴミ拾い＞

身近な伊南川と黒谷川の水質調査とゴミ拾い活動を行う中で，「伊南川の方が黒谷川よりも水質が悪く，ゴミが多い」という結果にたどり着いた。そこから，「なぜ，同じ只見でも水質に差が生まれるのか」という疑問を解決するために，川の位置や川幅，周りの環境など様々な視点で考察し，学びを深めた。

＜只見から日本海までの川をたどる学習＞

さらに日本海の海岸沿いでのゴミ拾い活動を通して，海洋のゴミ問題には山間部である自分たちの生活にも原因があるのではないかという考察にたどり着く。さらに海洋ゴミを減らそうと行っている沿岸部の取組について知ることで山沿いに住む自分たちがどのように海を意識して生活を改善していけばいいのか考えることに至った。

児童は，海から自分たちの生活を見直すことで持続可能な社会につながる生き方について考え始めた。

Ⅳ　只見中学校の実践

1　実践名

自然首都只見からの発信 ～中学生と共に学び持続可能な社会を作るための取組～

2　実践の概要

本校では，地域と共に学ぶ生徒の育成を念頭におき，ESD を行っている。総合的な学習を軸として教科等横断的な取組にしている。必要に応じて，短期的なプロジェクトベースで新聞紙レジ袋作製などの活動を行ってきた。これらの活動については，地域の協力により育てていただいたが，地域にとっても中学生が大きな役割を担ってきており，相乗効果を生んでいる。多くの人を巻き込んで実践していく中で，カリキュラムを整え，より大きなうねりとしていきたい。新入生や ESD の実践が初めての転入された職員もすぐに仲間として学び，活動できるように工夫している。

3　成果と課題

○　過去３年間の取組を，ブラッシュアップして継続している。現在も継続的に行っている活動として【ねっか袋の作製，新聞紙レジ袋の作製，SDGｓバッジの作製，コキアによるホウキ作り】が挙げられる。年度当初の新入生オリエンテーションでは，役立つモノを作っているという表面的なことだけではなく，作製する意義についても説明し，全校生で取組の意図について確認することができた。

○　総合的な学習の時間と社会科のみで行っていた活動だったが，SDG 委員会を立ち上げたことで，組織的に作業を行い，メディアに対しての発信活動を積極的に行うことができた。

○　小学校で学んだことを活かし，より発展的な学習へと結びつけることができた。

●　カリキュラムの見直しを図ったため，教科等横断的な取組は限られたものとなった。時間をかけてストリーマップの作製に励みたい。

4　主な実践の様子

（1）『地域合同防災訓練』～防災・減災の視点から～

只見中学校を会場にし，隣接する朝日小学校と地区振興センターと連携・協働し，地域合同防災訓練を行っている。この訓練は，地域コミュニティの強化だけではなく，児童生徒の健全育成にもつながっている。コロナウィルス感染防止の観点から規模が縮小されたが，避難してきた小学生に洪水の恐ろしさを教えるための『語り部活動』を行った。被災を過去のものとせず，助けられる人から助ける人材を育てるためにも重要な取組である。

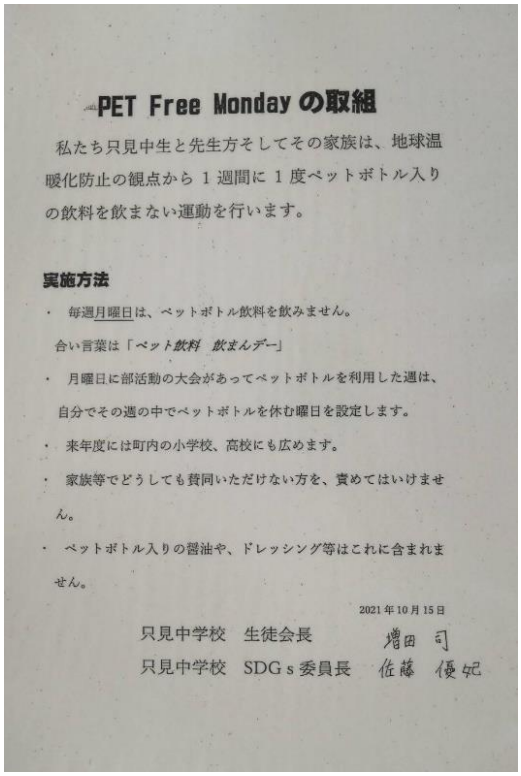
（2）『ねっか袋，新聞紙レジ袋，SDGｓバッジ，コキアのホウキ』の作製から広報活動へ

以前から取り組んできた活動に加え，それらを様々な形で広めることを行ってきた。

はじめは『新聞紙レジ袋』を作製し，CO2 の削減と海ゴミを減らすことが目的であったが，それが軌道に乗ってきたため，作る以外の方法で広めようと努めてきた。レジ袋作製のオンライン教室やマニュアル作り，メディアを利用した発信，rooms43 やふくしまゼロカーボンデーなどのイベント参加，大学を含め各種団体で発表する機会をいただくこともあった。オンラインなどはコロナ禍ならではという発信の仕方だったが，中には修学旅行で本校を訪れ，レジ袋の作り方を習っていく学校もあった。体験が思考を生み，新たな行動へ繋がった良い流れになったと言えよう。

（3）『気候非常事態宣言』と『PET Free Monday』について

プラスチックゴミを少しでも減らそうという考えから，ペットボトル飲料を飲まない日を週に１度設定する「PET Free Monday」を実施した。対象者は生徒，生徒家族，学校職員とし，金曜日と月曜日には校内放送で，SDG 委員長が呼びかけをしている。それでも家庭ではなかなか協力いただけないという現実から，SDG 委員長の提案で「PET Free Monday」を呼びかけるマグネット作るという案が出された。図柄は只見中のオリジナルキャラクターが「PET Free Monday」と訴えかけるものとした。キャラクターは全校生徒から公募し，プロのデザイナーに整えてもらったものである。まずは只見中生徒家庭分と教師分のマグネットを作製し，各家庭で取り組む予定である。現在進行形ではあるが，将来的には只見町全戸 1700 軒にも配付したいと子どもたちは意気込んでいる。子どもたちから提案のあった LINE スタンプも子どもたちが原画を描いたところまで進んでおり，現在デザイナーに修正をかけていただいている。



PET Free Monday の取組

私たち只見中生と先生方そしてその家族は、地球温暖化防止の観点から 1 週間に 1 度ペットボトル入りの飲料を飲まない運動を行います。

実施方法

- 毎週月曜日は、ペットボトル飲料を飲みません。
  合い言葉は「ペット飲料　飲まんデー」
- 月曜日に部活動の大会があってペットボトルを利用した週は、自分でその週の中でペットボトルを休む曜日を設定します。
- 来年度には町内の小学校、高校にも広めます。
- 家族等でどうしても賛同いただけない方を、責めてはいけません。
- ペットボトル入りの醤油や、ドレッシング等はこれに含まれません。

2021 年 10 月 15 日

只見中学校　生徒会長　増田　司
只見中学校　SDGｓ委員長　佐藤　優妃

この活動をもとに，全国の中学校に先駆けて『気候非常事態宣言』を発表した。地域住民をステークホルダーにして，今後大きな動きを作りたい。

気候非常事態宣言を出す生徒

オリジナルキャラクター
「らっくん」

地域ESD活動推進拠点
Education for Sustainable Development

ＳＤＧｓ（Sustainable Development Goals：持続可能な開発目標）とは，世界の全ての　人々が平和で，幸せにくらせるようにと願い，国連が定めた１７項目の国際的な目標で，２０３０年までの達成を目指して世界中で努力しているものです。只見町の学校ではＥＳＤ※を通して，ＳＤＧｓの達成を目指しています。

※　Education for Sustainable Development：持続可能な開発のための教育
「目先の利益だけを考えず，将来にわたって豊かに存続できる地域，地球，世界を作っていこうとする人材を育成する教育」

【ロゴの紹介】
青色は「学び」，黄色は「活動」，森や自然を想起する緑色は「持続可能な社会」を象徴しています。ＥＳＤの文字で卵から雛が生まれる様子を表現し，青色と黄色を混ぜると緑色が生じるという「色の原理」も織り込んで，「人々の学びと活動によって持続可能な社会を生み出し，育てる」というＥＳＤの考え方を表しています。

只見町のＥＳＤ

発行年月　２０２２（令和４）年６月
制　　作　福島県只見町教育委員会
協　　力　福島県只見町立只見小学校
只見町立朝日小学校
只見町立明和小学校
只見町立只見中学校